情報活用型プロジェクト学習　指導方略のヒント集（2018．1．5バージョン）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 収集 | 編集（整理分析・表現） | 発信 |
| 学びのイメージ | ・明確な課題意識をもって主体的に情報を集める | ・思考を働かせ、自分たちの考えをつくりあげる | ・相手意識をもって伝え、自分たちの学びをふりかえる |
| 主体的な学び  （意欲＋見通し） | ○ミッションに共感する（問題意識、憧れ、依頼）  ○課題の設定（ミッションに対する気持ち、分からないこと、見通し）  ○収集方法を検討する（手段、キーワードや質問内容の事前検討）  ○探究の見通しを立てる（スケジュールの提示・共有・プランニング） | ○分析方法を検討する（課題に向き合う、情報の質から判断する）  ○表現方法を検討する（アイデアの質や発信場面とメディア特性から判断する）  ○振り返りの機会（計画の評価・調整をするチェックポイントを設ける） | ○めあてを持って発表する  ○単元を通した学び全体をふりかえり、評価する  ○新たな課題を見つける |
| 対話的な学び  （学び合い＋ アイデア創出） | ○疑問やアイデアを出し合う（ブレインストーミング）  ○チームをつくる（生活班、課題別グループ）  ○情報収集を分担する（テーマごと、手段ごと） | ○集めた情報を共有する（共通・相違点や関連性に気づかせる、取捨選択する）  ○意見の相違や対立に直面させる（提案と根拠を明確にする、対立点の視覚化）  ○新たなアイデアや解決策を作り出す（妥協点の模索、情報の再収集）  ○発信内容の点検（内容、相手を意識した工夫などの相互評価） | ○ミッションと成果物にあった場の設定（発表時間、空間、手段、流れ）  ○ホンモノの評価（リアルな発信相手の設定）  ○フィードバックの確保（質疑応答、コメントカード、アンケート等）  ○伝わったことと伝わらなかったことを確かめる |
| 深い学び  （見方・考え方＋探究） | ○課題の点検（単元のねらいに迫る見通し）  ○情報の質と量（ホンモノさ、多面的か、  ○単元の基盤となる知識や技能の習得（一斉指導や個別の習熟） | ○教科の見方・考え方を働かせて情報を整理・分析する  ○思考ツール、表やワークシート等を工夫して思考を促す  ○表現する際の工夫点をしぼるために、型や制約を設ける  ○思考・表現を支える技能を指導する | ○発表に対するルーブリックの設定  ○質疑応答の視点を明確にする  ○他の班の成果と自分たちの成果をつなげて考察する（まとめの発問）  ○個としての学習成果を総括する |
| ICT活用 | ○ウェブでの検索・収集  ○写真や動画による記録  ○データを入力する | ○協働学習ツールによる情報共有  ○データの整理・分析（表やグラフ、データベース）  ○デジタルで編集（ワープロ、プレゼン、動画、プログラム等） | ○拡大提示による発表  ○ウェブやSNSへの情報発信  ○これまでの学びを振り返る |